

第1回 小山田・小山田南地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2026年7月15日（水） 9:30～11:30	
開催場所	小山田南小学校 3階パソコン室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	和泉委員、武本委員、山木委員、鹿谷委員、鏡委員、萩生田委員、小川委員、中島委員、雑賀委員、小山委員、森委員、藤田委員、稲田委員、佐藤委員、◎悴田委員、○望月委員、山野委員 （◎会長、○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、教育センター
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

はじめに

学校教育部長 皆さん、おはようございます。町田市教育委員会学校教育部長の西澤です。本日はお忙しい中、小山田・小山田南地区新たな学校づくり基本計画検討会にご出席いただき、ありがとうございます。

教育委員会では、少子化による児童生徒数の減少や学校施設の老朽化といった喫緊の課題に対応しながら、町田で生まれ育つ未来の子どもたちのために、より良い教育環境を整備するため、2021年5月に町田市新たな学校づくり推進計画を策定し、新たな学校づくりの取組を進めております。

第1期として位置づけた5地区においては、2025年の4月に本町田ひなた小学校と成瀬小学校が、今年の4月には鶴川中央小学校が開校いたしました。開校後の学校の状況といたしまして、保護者の方からは、新しい友達ができて楽しいと子どもたちから聞いている、児童が増えて世界が広がっていることを親として実感しているなどのお声をいただいております。また、子どもたちを見守ってくれる地域の方が増えて心強いといった学校からの声も届いております。

さて、小山田・小山田南地区については、昨年12月に意見交換会を開催させていただき、皆様から様々な意見を頂戴いたしました。意見交換会でいただいた意見を踏まえつつ、これまでの経験なども共有させていただきながら、本検討会での検討を進めていければと考えております。

本検討会には、保護者の方、地域の方、学校運営協力者の方、教職員の方々に委員としてご参加いただいております。それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

本検討会を小山田・小山田南地区の新たな学校づくりを考える場として、小山田・小山田南地区の将来の子どもたちのために議論を深めていただければ幸いです。

最後になりますが、町田の新たな学校づくりは、将来を見据えた、より良い教育環境を整備するとともに、地域と学校の新たなつながりを生み出す取組でもございま

す。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

新たな学校推進課 この会は、様々な立場の方々と地区ごとの具体的な取組を検討していく場である。本地区については、市議会で統合時期見直しの請願が採択されており、計画そのものに様々なご意見をいただいている状況である。教育委員会及び町田市では、請願の主旨に則り、教育委員会のみならず、都市づくり部や道路部とも連携して、小山田地区のまちづくりについて話し合いを進めているところである。こうした状況も踏まえ、教育委員会が目標としている、2035年の小山田小学校・小山田南小学校の統合について、市の考え方を改めて説明するとともに、皆様からご意見をいただいて計画策定に向けた議論を深めていければと考えている。今年は7回の開催を予定しているが、状況に応じて8回、9回と臨機応変に回数を重ねていければと考えている。児童数の減少や老朽化は喫緊の課題だが、子ども目線でより良い環境をつくるため、皆様の思いを受け止め丁寧に取組を進めていく。

1 新たな学校づくり基本計画検討会について

新たな学校推進課 （資料1-1説明）

〔 委嘱書交付 〕

〔 会長・副会長選任 〕

新たな学校推進課 （資料1-2説明）

〔 委員自己紹介 〕

新たな学校推進課 （資料1-3説明）

2 小山田・小山田南地区の新たな学校づくりについて

新たな学校推進課 （資料2-1、資料2-2、資料2-3説明）

会長 事務局から学校づくり全体や小山田の計画内容等の説明があった。今日は統合計画について、皆様のお考えを自由にお話しいただきたい。お話の中で今後の議論のポイントをいただけるとありがたい。

委員 説明していただいた資料の中で教えていただきたいことがある。

8ページ目の第2期の優先地区で小山田小と小山田南小の統合が3位、相原小と大戸小の統合が11位だが、なぜこの順位かを聞きたい。現在大戸小は109名、小山田小は208名である。大戸小は小中一貫校という特殊な事情があるとは思いますが、優先順位は児童数や老朽化という話だった。老朽化でも小山田南小は46年、相原小は68年、普通に考えれば大戸小が優先されると思うのだが、なぜ小山田南・小山田小が3位なのか理由を聞きたい。

新たな学校推進課 大戸小学校は市内で唯一の小中一貫校であり、当初の計画では児童数が一番少ない大戸小を一番に入れていた。

その後、市議会での請願もあり、小中一貫校であることを望んで入学している子どもたちがいることから、新たな学校づくり推進計画の策定以前に入学した子どもたちが、中学校を卒業するまでは検討を後ろにしよう、ということで整理をした。昨年に計画を修正した際、計画策定前に入学した生徒が卒業した以降であれば、当然児童生徒数が少ない学校なので、着手する優先順位が高くなるということで、相原小と大戸小も第2期に位置づけた。計画策定以前に入学した子どもたちが卒業した後検討に入るため、2037年を統合年度としている。

委員

一貫校の事情で延ばすのは分かるが、議会の請願がほとんど却下されている中で通ったのが大戸小と小山田小であり、この2校の統廃合は地元の意見を聞きながら慎重にやっていただきたい。議会の意見は非常に大事だと思っている。

今回の資料に請願の内容が含まれていなかったが、1,500名ほどの署名を集めて請願し、議員全員の賛成をいただき承認されたものなので、重く受け止めていただきたい。次回で良いので、請願の内容と議会への回答を資料として出していただきたい。この場でもそれを参考にさせていただきながら議論していきたいと思っている。

もう1点、町田市全体で学校が統合されること自体は当然良いと思っているが、小山田地区に限っては、小田急多摩線延伸に伴う新駅周辺のまちづくり構想が2016年に出されている。これについて、今、事業採算性の検討を町田市と相模原市で行っており、その結果が2027年度末に公表される予定だと聞いている。その後、国の交通政策審議会が2030年、2031年頃に開催され、小田急多摩線延伸の方向性が決まってくると思う。

小田急多摩線の延伸は事業採算性の問題で進んでいなかった現状がある。現在両市で採算性の検討を行っており、結果が出た場合は今後の小山田のまちづくりを考えていかなければならないと思う。町田市全体では子どもの数が減っていくが、市内で唯一新駅構想がある小山田地区に、ある程度人口が増える想定があれば、小山田小の児童数も将来増えてくる可能性がある。市全体の減少だけで判断するのではなく、先の計画を見据えて統廃合を慎重に検討していただきたい。

新たな学校推進課 請願の内容と教育委員会の議会への回答については、次回資料としてお持ちする。今日は初回ということで、皆様お一人お一人に計画に対する様々な考えや観点をお話しいただきたいと考えている。皆様のご意見から出てきた観点を整理し、次回以降はテーマを設定して議論していきたいと考えている。事前の説明が必要なものは我々からお話するので、前提として話してほしいことや必要な資料があれば併せてお寄せいただけるとありがたい。

委員

この会の趣旨を確認したい。請願の話やそれに対する市の対応などは、伝え聞いている部分もあり認識しているが、この会の趣旨としては、今後どうなるかはまだ不透明な状況でも、計画として議論を進めていく、学校をつくっていく、こんな学校にしたい、こんなまちづくりに繋がる、という議論の場であって、歩みをセーブする

とか、そのための議論の場ではないと考えて参加しているが、いかがか。

新たな学校推進課 取組を前向きに捉え、ご参加いただき大変ありがたい。もちろんその通りだが、この地区では前提が全て決まった中で議論を始めるわけではなく、様々なご意見がある中でスタートする。前提についても様々な意見があるため、まずはそこから皆さんの考えをまとめ、一つの方向をつくったうえで進めていきたいと考えている。

委員 別途町内会と市で議論していると思うが、こちらの会でもそのプロセスを踏むということか。

新たな学校推進課 前半の回では、そういった部分も少し話したいと思う。地元の方との対話は、あくまで地元の方と我々しかいない場であり、そこでの意見はもちろん受け止めさせていただいているが、保護者の方など多様な方々の意見の中での議論も必要であると考えている。地元の会とこちらの議論を相互に共有し、リンクさせながら進めることで、皆さんの思いが一つに向かっていけると考えている。

委員 保護者としては、子どもが安全で楽しく通える場所をつくっていただきたい。素敵なまちづくりができるなら協力したい。

委員 もう少子化は止められないと思っている。統合年度の2035年度には子どもは減っているだろうと思う。仮にこの地区が発展していたとしても、日本の人口が減っていているので、ここだけ急に何千人と増えることはなく、学校を増やすことが必要なほど増えるとは思えない。10年弱という時間はあっという間で社会の変化も速く、ゆっくり考えたいけれども、その時間はないと思っている。子どもたちの未来を考えたら、スピード感を持って進めることも必要かと思い参加している。これから生まれる子どもの将来のためにも、大人として未来をつくってあげたいと思う。

委員 海外に行く機会も多いが、日本の力が廃れてきていると感じている。海外にはもっと元気な国がたくさんあって、子どもたちもすごく活発に頑張っていて、色々な体験ができ、色々な機会を活用している。そういう中で教育はとても重要である。日本の中でも差がある中で、公立小学校でどんな体験を提供できるかが重要だと思っている。新しい学校づくりにもその要素を取り込んでほしいと思っている。

委員 一番問題なのは、学区が広過ぎること。全体の統廃合自体は全然良いと思っているが、団地の中にある学校や中心市街地にある学校は、学校自体がそれほど遠くない。しかし、小山田地区に関しては、多摩市に近いところまで学区があり、距離の問題が大きい。市境から小山田南小まで子どもの足で1時間ほどかかる。スクールバスの検討がされているのは承知しているが、1、2年生の子どもたちが通う距離として本当に良いのかと、この地域特有の課題として町内会でも話になる。

それから、小山田小は緑の中にあり、今朝も小山田小学校の前の田んぼで子どもたちが作業をしていた。身近なところで様々な体験ができる。さらに、地域住民が学校と一体となって活動している学校である。そういった点も重要なのでよく考えていただきたい。統合に反対ではなく、2035年ありきで、物事が決まったみたいな形で進んでいることに疑問を持っている。

新たなまちづくりが計画されていることもあるし、もう少し経てばその方向性が

出る。そういったことを踏まえて、小規模特認校として若干の期間存続させて様子を見るなど、いろんなやり方があると思う。他市では数十人規模で残す例もある。小山田小は現在200人で市内では少ないが、特認校と比べれば多い。一番の問題は今後のまちづくりなので慎重に考えてほしい。そういった計画がなければ、はっきり言って統合も仕方ないと思う。まちづくりがあるのでもう少し待っていただけないかというのが素直な意見。地元の声としても多くある。

委員 小山田地区は山坂が多く、遠い地域は30分以内で歩くのは絶対不可能。統廃合もまちづくりの一環としての位置づけとして考えているので、小田急多摩線の延伸を含めた今後の展開も踏まえて検討してほしい。

委員 小山田の事情はよく分かる。遠距離通学は本当に大変だと思う。大変なのはすごく分かる一方で、小山中央小など新しい学校を見ると魅力的だし、小山田小は外壁がだいぶ傷んで汚れてきているし、続けるには維持費もかかる。まだはっきり結論は出せないが、皆さんと一緒に考えていきたい。

委員 通学はやはり大変だろうと思う。スクールバスを出すということだが、十分に話し合って進めることなのかなと思う。この地区の良さは緑、自然が多いということなので、ぜひそこは大切な要素として考えていきたい。いろいろな観点の様々な意見を教えていただきながら、この会を進めていけたらと思う。

委員 この地区は本当に素晴らしい地域だと思っている。緑があり、田んぼや畑があり、子どもたちが目をきらきらさせて学び、思い切り遊んでいる。それは両校とも同じだと思う。この地域の魅力をととても享受している。地元の皆さんに応援してもらえるような学校づくりの議論、そして10年後、今生まれた子どもたちがどんな場で学び、成長していくのかという中でお役に立てたらと思う。

委員 小山田という地域は、自然豊かなところで、それぞれの学校がそういった特色を活かして教育を行っている。それは変わらないかと思う。10年後の児童数や特別支援学級の状況などを踏まえ、教室数確保や、刺激に弱い子に配慮した教室づくりなど、専門的にお話ができたらと思う。

委員 上小山田、下小山田の会長さんと一緒に色々な議論をさせていただいている。小山田地区は他の地域に比べてのまちづくりがほとんど進んでいない。この状況で統合の話が出た以上、小山田小には人が来ない。町田市には学区の緩和措置あるが、これには疑問を持っている。小山田小は3年生以外全て1学級だが、本来の学区に通えば2学級あるかもしれない。統合の話があれば、どうしてもそれを避けて他校に通う子も出てくる。大沢地区の子どもは自分のお金でわざわざバスで行っている。スクールバスとなれば、恐らく利用する家庭に負担があり、格差が生じる。近くの人はずういうことはない。これは一つ問題である。

それから、先ほども出ていたが、2030年頃の交通政策審議会の答申やモノレールの動向もある。ひょっとしたら小山田という地域が全く変わる可能性がある。最低限そこまでは待ってもらいたいという気持ちは強い。自然が残りながら生まれ変わる。これはとても大事で、ぜひ加味してもらいたい。まちづくりの中で、学校をどうする

かをしっかりと押さえながら進んでいきたいと思う。

最後に、単学級は単学級でいいところがいっぱいある。ただ先生方が少人数でやっていくのはやはりきつい。町田市職員として派遣するなどの支援が絶対に必要だと思う。そうすれば小さな学校でももっときちっとしたことができるのかな、と捉えている。

委員 今単学級の話が出たが、単学級は先生と児童が密に活動できる反面、先生の立場からすると、相談できる同学年の先生がいないという面もある。なので、確かに人数が増えると良いと思う。また、小山田地区では色々な体験ができるので、それを踏まえた学校づくりやまちづくりができると良い。新しく駅ができて、ぜひ小山田に住みたいと思われるが良い。無理に統合しなくてもいいかなとは思いますが、人数や学区の問題があるので、どちらが良いか考えながら話し合いができると良い。

委員 統合のポイントになるのはまちづくりだと思う。これがなく、今のままずっと行くなれば統合も仕方ないという気もするし、それがいいかと思う気もするが、新駅周辺の開発が想定されるとすると、学校が近いことは家選びのポイントになるため、残した方が良い気もする。それから、最近相模原から町田に引越しをする人が多いと聞く。駅ができてきちっと開発されれば、かなりの人たちが町田に住んでくれるのではないかと考えている。その際に小学校はポイントになる。

2031年の審議会の答申までは、それまで何もせずにじっと待っていることはないと思うが、性急に進めず考えても良いと感じている。里山の環境の良さを生かし、開発と抱き合わせで進めれば地域が盛り上がり期待しており、市のまちづくり関係の部署とも、小山田小学校の将来を考える会で話していきたい。

委員 上小山田町に住んで10年くらいになるが、知らないこともとても多いので、もっといろいろな地域のことを学んでいきたいと思った。新駅の可能性などを考えると魅力的だし、わくわくする部分もあるので、色々な視点で考えていけたらいいと思う。

委員 まちづくりの大前提は道路や駅などが一番大きいインパクトだと思う。多摩境駅周辺のように、駅ができれば地域の様相が全く変わるという現実を小山田の方々は見ているため、こういうお話が出ていると思う。しかしそこは非常に難しい。小田急多摩線の話も、2031年に本当に結論が出るかどうかはわからない。何十年というレベルでなかなか実現できなかった中で、果たして2031年にどれだけの答えが出るか、そこは見えないところがある。

一方で既存校舎の老朽化は間違いなくあり、児童・生徒の安全性や快適性の確保との兼ね合いの中で、どう見極めるかは非常に難しい。二重投資もできない。事務局が見極められるかといったら難しい。駅や審議会の動向もわかるが、我々がどういう前提を置くか、ある程度決めないと先の議論ができないのかなと思う。先の話は「たれば」だが、危険性、老朽化の対応などは待たないなので、その兼ね合いをうまく考えてやっていく必要があるかと思う。

委員 社会の問題として少子高齢化の中で子どもが減っていく、自治体も「賢く縮む」と

という言葉聞いた。すごく良い言葉だと思ったが、実現するにはとても難しいことだと思いながら、対話が必要だと感じている。

小山田に関しては、まちづくりと統廃合が、上手にやれば両方の視点を持ちながら考えられるが、ごっちゃになると両方がうやむやに進んでしまうと感じている。学校統廃合は全国的な問題であり、何かアクションを起こすにも賛成、反対があって当たり前で仕方がない。その中で、たくさんさんの請願が出てきた中で鶴川や成瀬で統廃合を行って来て、地域性に限らず共通して起こる問題とか、必ず議論になることなどがあつたかと思う。それを知りたいし、小山田に限らず今後大事な情報になっていくと思う。教育委員会の皆さんが、そういった視点をどういう工程を経て、今回の小山田に着手するのかということが気になる。可能ならそれを整理してまとめていただき、資料にしていただけたらありがたい。

委員

最初は学校が遠くなってしまうということで反対したい気持ちがあつたが、校舎の老朽化や土砂災害危険区域という立地を考えると統合などがいずれは必要で、統合に当たり、統合するから新しいことができるとか、そういうことも検討ができると考え、前向きに参加している。

実際に小山田小出身の上の子たちにも意見を聞いてみたが、2校は中学校で一緒になるので、早くから一緒になって仲良くなるのはとてもうれしいという意見ももらった。小山田の良さを残したいとか、単学級の良さをもっと生かせないとか、そういうことに考えがいつていたが、子どもたちは友達と仲良くなるのが一番のようだった。子どもの意見は、「中学は3年しかないので、その前からもっと交流ができていれば、もっとこの子と仲良く過ごす時間があつたのに」というような感覚のようだった。

一方で、学区域が広く、日陰のない長距離の通学路は危険で、自費でバス通学をしたり、送迎をしている家庭もある。近所に未就学児の方、この統廃合に関わってくる方々もいる。小学生には自転車も危ないので、統合時はスクールバス検討をしていたきたいし、学校の敷地内に車が乗り入れてもよい場所などがあるとすごく安心できるかと思う。

また、小山田小は地域の方から場所を借りて、大きな田んぼで作業をさせてもらっている。健全育成の方々のご協力とお気持ちがすごく入った大切な組織なので、学校と密に連携して、1日かけて田んぼに行く授業があつてもいいと思っている。制約はあると思うが、授業に組み込むというところで生かしていけるのではないかと思う。特化した魅力があり、話題になる学校づくりがこの統合でできるのであれば、新駅から多少離れても、車やバスで行ける交通手段が確保されていれば親としては安心であり、交通手段さえ確保できれば安全面は担保できるかと思う。

子どもたちの意見は親と違うこともあるかもしれないので、それも組み入れながら話を進めていければいいかと思う。登下校の交通手段や駐車場の確保、健全育成と協力した事業の組み込みなど、特化した特色をつくることができれば、ぜひこの話を進めていっていただきたいと思う。

委員 まず、学校長として、教員や人の配置に関して触れていただきありがたく思う。小規模校の運営は非常に大変だということはお伝えしたいと思っていた。また、学校関係者がここに参加している意味というのは、未来の子どもたちにとって、どんな学校、どんな教育がいいのかということを書いていくことだと強く思っている。

新たな学校推進課 皆様から様々なご意見をいただいた。通学のことやまちづくりに関連した統合時期のこと、子どもの意見を聞くこと、どんな新しいことをやっていけるかなど、多くの観点をいただいた。これらを踏まえ、次回以降はテーマをもって議論を進めていきたいと思っている。

 また、委員から資料のご提案をいただいたので、次回お出しできるかは検討させていただくが、今後の中で対応していく。

 今日皆さんから率直な意見をいただく会として行った。ご意見を整理しながら次回の論点を決めていきたいと思う。

委員 緩和措置がない状態で、本来の小山田小学区内に住んでいる子が何人いるか調べられるか。198人だけれども、実際はもっと多いだろうというのが僕の考えである。それと、緩和制度の意味合いもお願いしたい。

新たな学校推進課 承知した。その部分も次回の議論のテーマの前にお話しする内容の一つとして準備をする。

委員 昨年の12月に両校で行った意見交換会で多くの意見が出ていると思うので、次回資料として出していただけないか。

新たな学校推進課 承知した。意見交換会で出た意見と回答についても、次回の資料としてお持ちさせていただく。

会長 今回は本日いただいたご意見を踏まえて、小山田・小山田南地区の計画としての検討会の考えをすり合わせていきたいと思う。

新たな学校推進課（次回開催日程確認）

会長 （閉会のあいさつ）